

グループA「ブログ」(仮)

リナ
アイ
イクミ
ミサキ
アサミ
キヨミ
ユウ
アヤナ
ユカ

画面に映し出される、日記

「なんでもうまくいかないんだろう。本当は素直になりたい。みんなはどうやって生きてるのかな。好きな音楽はなに？私は、○○○とか○○○とか好きで、いつもヘッドフォンで聴いています。別世界につれていってくれるところがすごく好きなんです。

あと、漫画は○○○とか○○○とかが好きです。○○○って人が書いた○○○も好きかな。ここから出て行きたい。ここではないどこかに私の居場所があるような気がする。みんなはどう？今日、指輪を拾いました。泥にまみれていたのに、街灯の光に照らされてきらきら光っていました。あまりにも美しくて、ああ、これは私のところに来てくれたのかな、と思いました。いや、届けなきゃいけないのはわかってます(笑)でも、1日ぐらい私の元に置いてもいいよね。誰か、返信ください。」

舞台上にリナ、アイ、ミサキ、アサミ、アヤナ、イクミがいる。彼らはみな別の空間にいて、同じメッセージを受信する。

一斉に着信音、バイブの音

皆が、携帯、あるいはPCに反応する。

返信をするのは、リナ、アイ、ミサキ、アサミ。

きう（リナ） 「私も、素直にはなかなかないな。みんなそうなんじゃないの？」

めぐる（アイ） 「私も○○○好きー！いいよねー私も別世界に連れて行ってくれるところが好きかな」

そぼろ（ミサキ） 「どんな指輪？私もきらきらひかる指輪が欲しいー」

くるみ（アサミ） 「ここではないどこか、そんなのあったら私も行きたい。」

学校の教室

イクミ おっはよーリナ！

リナ おはよう

イクミ ねえねえねえ今日って体育何限だっけ？

リナ 3限目だよ。

イクミ あーやっぱりそうかあ

リナ やっぱりってなに？わかってたんだ。

イクミ うーん、お昼にちょっと用事があって、体育だったら遅れてもいいかと思っ
つて。

リナ あーまあどうにか先生には言っておくよ。

イクミ ありがとうさっすがリナ。

リナ で、お昼になにがあるの？

イクミ えっと・・まいいじゃん。

リナ えっああ、まあいいけど。

イクミ ねえねえそれよりさ、昨日の嵐の番組見た？

リナ 見た見た！ニノかつこよかったー

イクミ ニノ？マツジュンじゃないの？

リナ いや、マツジュンもカッコいいけど昨日はニノがよかったよ。

イクミ あ、そうなんだー私はゲストの仲間さんがよかったな

リナ あ、仲間さんなんだーへー

イクミ あそうだ、もしかして1限って英語だよね？

リナ そうだよ。

イクミ この前のノート見せてもらえる？

リナ　　また？いいけど。
イクミ　　ありがとう・・・

と、イクミの携帯が鳴る。

イクミ着信の名前を見て、びくつとする。いそいで電話に出て、そのまま廊下に行く。

イクミ　　はい・・・あ、はい、ああ・・・はいわかりました・・・

電話を切ったあとイクミは携帯を投げようとするがこらえて、笑顔を作って教室に戻る。

リナ　　どうしたの？

イクミ　　なんでもないよーさーて英語英語、うつさなきゃー

リナ　　・・・

暗転

昼休み

体育館の裏

アヤナ、ユウ、キヨミがいる

キヨミ　　アヤナ、アヤナ！あいつさーマジうけるね、見てらんない。マジうざいー
ユウ　　ねえー。

アヤナ　　はやくこないかなーイクミちゃん。

イクミ、ジュースを二本持って下手から来る。

ユウ　　あ来た。

アヤナ　　イクミちゃん、ジュース買ってきてくれた？あれ？足りないんじゃない？

イクミ　　あ・・・

アヤナ　　あと、私あんまんも食べたい。えっ買ってきてないの？さっき言わなかった

つけ？今すぐ買ってきてなさいよ。

イクミ
・・・

アヤナ
え、なに？聞こえないよ。

イクミ
・・・もうやめて・・・

キヨミ
あんた、さからうの？まじうける。買ってこいつて言ってるの。

イクミ
悔しそうに、その場を去る。

キヨミ
なにあの態度。まじうざい。

ユウ
ね。

アヤナ
いいこと思いついちゃった。

キヨミ
なに？

三人でひそひそ話

キヨミ
それ！おもしろいわ

ユウ
すごい

アヤナ
でしょ

放課後

かばんを持って足早に帰ろうとするイクミと、携帯の画面を見ながら歩いているリナが廊下でぶつかる。

イクミ
あっ

リナ
あっ

イクミ
リナ！

リナ
イクミ！大丈夫？

イクミ
リナこそ大丈夫？

リナ
私は大丈夫。あ、イクミかばんが・・・

イクミ
あ・・・

リナ
なにこれ？どうしたの？なにこの教科書？・・・

イクミ
・・・

リナ なに？いじめられてるの？

イクミ ・・・・

リナ ねえ、どうゆうこと？

イクミ ・・・・

リナ いつから？

イクミ ・・・・今年に入ってから・・・

リナ うそ、気づかなかった。

イクミ なんども抵抗しようと思ったんだけど・・・多分、もっとひどくなつてリナにも迷惑がかかると思つて。

リナ そんな・・・

イクミ ・・・・でもわかつちやつたね・・・

リナ ・・・・

イクミ ・私、ほんとに誰かにこのこと聞いてほしかった。リナにも話せなかったから、苦しかった・・・

リナ ・・・・そうだったんだ・・・

イクミ あたりを見回して

イクミ 来て。ここじゃ話したくないから、いこう。

リナ うん・・・

2人、上手に去る。

ブログ

きう(リナ) 「素直になれないのは、人を疑っているからなのかなあ。」

そぼろ(ミサキ) 「そういえば、あの指輪はどうなったの？」

くるみ(アサミ) 「私はここではない、別の世界を見つけました。だってこの中にあるじゃない。」

めぐる(アイ) 「音楽の中にもあるよ。あ、でもそれば現実逃避かな」

くるみ(アサミ) 「私はこの中では素直になつてゐるつもりだよ」

そぼろ(ミサキ) 「ねえあの指輪は？どうなったの？気になる」

みつき(アヤナ) 「楽しいことってそんなにないよね。」

めぐる（アイ） 「私は、学校まあ楽しいよ。」
きう（リナ） 「私は友達といるのが楽しいよ」
みつき（アヤナ） 「友達ってなに？」

学校の教室 休憩時間

リナとイクミ、アイとミサキ、がいる。それぞれ別の話をしている。
とそこに、キヨミ、ユウがくる。

キヨミとユウ、イクミの前を通り、

キヨミ あんたが昨日買ってきたジュース、まじまずかったんだけど。ねえユウ
ユウ ねえ。

2人、通り過ぎようとする。

リナ ちよつと！待ちなさいよ。
キヨミ なに？

リナ なんなのあんたたち。イクミいじめるのやめてよ。

キヨミ へえーあんたこいつの友達？

ユウ よく友達やつてるね。

リナ やめてよ、

キヨミに向かっていくリナ

イクミ リナ、いいよ！
リナ でも・・・

とそのときリナの携帯の着信音がイクミのかばんの中から聞こえてくる。

リナ あれ？私の携帯？
イクミ え？

イクミ、自分のかばんの中を探す。

リナ　私の携帯・・・なんで？これイクミのかばんだよね。どうして。
イクミ　え知らない・・・どうして・・・

リナ　どうゆうこと？

イクミ　え・・・私じゃない・・・

とそこに廊下で様子を見ていたアヤナが教室に入ってくる。

アヤナ　へえ〜イクミって友達の手帳とっちゃうんだ。ひどいね。

イクミ　私知らない！私じゃない。

アヤナ　メールとか見ちゃったんじゃないの？

イクミ　そんなことしてない！

アヤナ　それ、あんたの手帳でしょ？

とリナに聞く。アヤナのまわりではキヨミとユウが笑っている。

リナ　・・・・・・・・・・そうだけど・・・・・・・・・・

リナ、教室の全体を見回す。

リナ　イクミ、イクミじゃないんだよね？入れたの。

イクミ　私じゃない・・・絶対に違う。

リナ　じゃあ誰かが、イクミのかばんに私の手帳を入れたんだよね。

イクミ　うん・・・

リナ　・・・・・・・・じゃあ私は信じる。

イクミ　・・・

ちよつと、なんなの？まじうざいんだけど。

ユウ　あんた、イクミにだまされてるんだよ。

キヨミ　ね

リナ　・・・・・・・・イクミはやってないって言ってる。誰かが、イクミのかばんに私の手帳を入れたんだよ。

アヤナ　なんで、イクミじゃないってわかるのよ。

リナ　・・・・・・・・本当のことはわからないけど、イクミの言っていることを、私は信じる。

アヤナ　・・・・・・・・やってらんない・・・

アヤナ、教室を去る

キヨミ あ！アヤナ？

ユウ アヤナ？どうしたんだろう。

キヨミ なんか・・・

ユウ 私たちもいこ。

キヨミ うん。

2人、アヤナが去ったほうに去る。

イクミ、リナは2人ともだまっている。

ずっと一部始終をみていたアイとミサキが、イクミとリナのところにくる。

アイ あのさ・・・さっき途中で言えばよかったんだけど・・・

ミサキ アイと一緒に教室に戻ってきたときに、リナの机のあたりに・・・ね

アイ さっきの2人がいたのを見たんだ。

で私たちが教室に入ろうとしたら、逃げるように出ていったから、なんなんだろうねって話してたんだ。

アイ うん。

ミサキ わかんないけど、そのさっきの携帯のこと・・・

リナ 私の携帯をイクミのかばんに入れたの・・・

アイ うん・・・そうじゃないかなって。

リナ、イクミと目を合わせる。

暗転

ブログ

「みんな、返信ありがとう。みんながいろいろな反応して話してくれて、なんだか嬉しかった。友達か・・・友達ってなんなんだろう。私もわからない。親も信用できない。自分も信じ

られない。どうしていいかわからない。何がしたいのかもわからない。指輪ですが、しばらく持ち歩いてしまったので、もう届けることができなくて、(すみません笑) また同じ場所に戻すのもあまりいい場所ではなかったのでやめて、別の場所に返しました。誰かが、見つけてくれたら嬉しいです。そしてそれを落とした本人に渡してくれたらいいのにな。勝手にごめんなさい。私は、届けることも落とした本人を探すこともできないダメなやつなんです。本当は手放したくなかったから。」

そぼろ(ミサキ) 「指輪かえしちゃったんだ。」

きう(リナ) 「落とした本人に戻るといいんだけど。」

くるみ(アサミ) 「ここではないどこかは、ないよ。」

みつき(アヤナ) 「友達ってやっぱりくだらない。」

めぐる(アイ) 「友達って、そんなに悪いもんじゃないよ。」

くるみ(アサミ) 「理想論はやめてね」

きう(リナ) 「私は、友達を信じることにした。そうしたら素直になれたよ。」

みつき(アヤナ) 「素直になんてなれない。」

きう(リナ) 「疑うのをやめてみればいいんじゃない？」

みつき(アヤナ) 「中学のとき友達に裏切られたの。だから、信じるなんて怖くてできない。」

きう(リナ) 「でも、私は、友達を信じる。私のことも信じてくれると思うから。」

学校 教室

アイとミサキ、キヨミとユウとアヤナがそれぞれのグループごと座っている。

リナとイクミが入ってくる。リナ、アヤナたちのほうに行く。

リナ こないだの携帯のことだけど、イクミがやったんじゃないってわかったから。

とだけ言ってイクミの方に戻ってくる。

キヨミ そう。それは良かったね。

アヤナ 友達ってやっぱりくだらない

ユウ アヤナ？

リナ、振り向く。

アヤナ なんなの？その自信。あんたたちバカじゃないの。そんな友達ごっこしちゃって。

キヨミ アヤナ、どうしたの？

ユウ アヤナ？

アヤナ くだらないって言ってるの。そんな「信じる」なんて・・・
リナ ・・・アヤナ？・・・

とそこにユカが教室に入ってきて

ユカ ねえねえ見て！これ

アイ なに？なに？

ユカ 図書館で見つけちゃった！

ミサキ なに？みせて！

ユカ 指輪！ほら、これほんものかな？このダイヤ！

アヤナ、リナ、イクミそれぞれが驚く。

ミサキ え！指輪？どこにあったって？

ユカ だから、図書館。ちょうど、「〇〇〇〇」の本の上。なんか誰かが意図的に置いた感じだったな。
ミサキ ちよつと見せて！

アヤナ、リナ、イクミが注目している。

ユカ なになに、みんなどうしたの？

という言葉に、みんながハツとする。

リナ アヤナ！あんたも、指輪が気になるの？
アヤナ 別に・・・ただちよつと。

リナ ……アヤナ、もしかして……
イクミ ……？

リナ 「みつき」？

アヤナ ……なんで、その名前……

リナ うそ……

イクミ え？

リナ え？

アヤナ ……

リナ そっか……

アヤナ ……

リナ さっき、ちよつと気になったんだ、ブログと同じこと言ってるって。

アヤナ ……

リナ ……

イクミ 私も。

リナ え？イクミ？イクミもあのブログに？

イクミ うん。でも今びっくりしてて、ちよつとよくわかってない。「みつき」がアヤナだなんて。

ユカから指輪を見せてもらっているミサキが指輪を見ながら

ミサキ ちよつとちよつと！これ、ほんとにほんとうに信じられないけど、もしかしてあのブログのだと思う？

アイ つていうか、なんでみんな知ってるの？

ミサキ え、アイも？

アイ うん

ミサキ じゃあこのこと知ってる人手あげて！

ミサキ、アイ、リナ、イクミ、が手を上げる。アヤナは座り込む。

ミサキ おお！

アイ どうするこれ。

リナ あの子、どこで拾ったって書いてたっけ？

ミサキ たしか、泥にまみれてたって書いてた気がする。

アイ おとといぐらいてって雨が降ってたよね。

ミサキ うわーほんとにあの指輪な気がしてきたー

イクミ きつとそうだよ。

リナ 落とした本人に戻ったらいいな、って言ってたから、拾ったのもこの学校の中なんじゃない？

イクミ そうだよね。そんなに遠くに戻すわけないもんね。落としたのもこの学校の人だよ。きっと。

アイ 落とした本人を見つけよう！

ミサキ うわく探偵みたい。

ミサキ、アイ、イクミ教室を出て行く。リナ、座り込んでいるアヤナのところに行く。

リナ アヤナ、あのブログに書いてあったこと……

アヤナはうつむいたまま

リナ 気が向いたら話してよ。もう隠すことないじゃん。

アヤナ何も言えず、ただ、うつむいている。

リナ、教室から出て行く。

残された、ユカ、キヨミ、ユウは何がなんだかわからなくて啞然としている。

ユカ なんなのいったい・・・「指輪」私が見つけたのに・・・

暗転